

論述ブースト No.18

薬物依存・アルコール依存を論じる ― 疾患モデル・当事者支援・社会復帰を3軸で整理する

導入文

薬物・アルコール依存を「意志の弱さ」「自業自得」として論じると、医学部面接では「依存症の疾患概念を理解していない」と判断される。依存症を「脳の報酬回路の疾患」として捉え、当事者支援・社会復帰の3軸で論じることで、医師志望者としての深みのある論証が書ける。

講義概要

薬物・アルコール依存を「疾患モデル（脳の報酬回路の変容）」「当事者支援（自助グループ・動機付け面接）」「社会復帰（スティグマ除去・就労支援）」の3軸で体系化する。依存症の神経生物学的背景、AA・NARCONONなどの回復支援モデル、ハームリダクションの概念まで整理し、医学部小論文・面接で論じられる力を育てる。

授業目標：依存症論述を道徳的批判から、疾患・支援・社会復帰の3軸による医学的論証へ変える。

対象者：高2～高3・浪人生。医学部・医療系の総合型選抜・推薦入試で、依存症テーマの小論文・面接に備えたい生徒。

授業時間：授業90分＋演習・質疑応答30分

到達目標：依存症を疾患として説明できる／当事者支援の具体的手法を論点に組み込める／ハームリダクションの概念を論じられる

授業構成（90分）＋演習・質疑応答（30分）

授業90分：1 導入：「意志の問題」という誤解と疾患モデルを比較 2 疾患軸：ドーパミン報酬回路の変容・渴望・離脱症状の神経生物学 3 支援軸：動機付け面接・自助グループ（AA）・薬物療法の整理 4 社会復帰軸：スティグマ除去・就労支援・地域での受け入れ 5 ハームリダクション：完全禁断より害の最小化を優先する発想 6 演習：「依存症患者に医師としてどう向き合うか」を3軸で論じる 7 まとめ：「疾患として対応する」視点を軸に論証する習慣を固定

追加30分：「ハームリダクションの是非」を3軸で300字論述する演習と質疑応答を行う。

板書・スライド骨子：疾患モデルの神経生物学的根拠／支援モデルの整理（動機付け面接・AA）／社会復帰の課題とスティグマ／ハームリダクションの概念

課題：「アルコール依存症患者を社会復帰させるために医師・社会それぞれに何ができるか」を疾患・支援・社会復帰の3軸で300字で論じる。

備考：高校・予備校の先生方／編入学試験および大学院受験への橋渡しの基礎確認をしたい方にも対応。